

# Point

J R 東海 労 大 阪 修 繕 車 両 所 分 会 分 会 情 報  
No. 73 2010. 10. 02.  
発行責任者 坂東 貞男  
編集責任者 教 宣 部

## 「不当解雇から3年！不当弾圧を許さず、 加藤誠二さんと共に闘う9・27集会」開催



9月27日、JR東海労名古屋地本主催「不当解雇から3年！不当弾圧を許さず、加藤誠二さんと共に闘う9・27集会」が開催され、私たち大阪修繕車両所分会からも11名の仲間が参加しました。

集会は、最初に3年間の闘いの軌跡を振り返るスライド上映があり、主催者を代表して名古屋地本山田委員長が3年間の闘いと加藤誠二さんへの思いを込めた挨拶から始まりました。

続いて、多くの来賓や各地本の代表から加藤誠二さんと共に闘う連帯の言葉が述べられ、最後に加藤誠二さんから

「7月7日、蒲郡駅事件刑事裁判において最高裁の下した上告棄却決定は不当なものであり、全く許せないがこれ以上刑事裁判では闘いようがない。現在は鉄道ファミリーで働いており保険の資格取得に向け勉強している。働く場所は違うことになったが東海労の一員として仲間と共に闘っていく。」と今後も共に闘っていく決意が語られました。

ところで、JR東海労とりわけ関西にとって、9月は満腔の怒りに打ち震えた一生忘れることができない日が2日あります。もちろん本集会の9・27、そして17年前の9・10京力・石川さんが不当な懲戒解雇を発令された日です。また17年前の9・27は解雇撤回48時間ストライキの初日でもありました。この17年間、不当弾圧に抗して石川さんは主に鉄道ファミリーで、京力さんはJR総連で活躍されてきました。

京力さんは、今年の年末には本来であれば勇退・退職となる60才を迎えることとなります。

この間、JR総連の旗の元に結集する多くの仲間の支えで2人の今日があるわけです。また、2人の出身である関西の仲間（つまり私たち）が共に闘ってきたからこそ、京力さんが仲間と共に勇退の日を迎えられるのだと思います。

まだまだ先のことですが、加藤誠二さんが悔いの残らない人生を送り、笑顔で勇退の日を迎えていただけるように、私たちが加藤誠二さんと共に不当弾圧にひるむことなく労働者魂を発揮して闘っていかねばなりません。



**3年前の9・27の満腔の怒りを忘れることなく、  
加藤誠二さんと共に労働者魂で闘っていこう！**